

## 『電気・電子・情報職 総まとめ講座 電磁気学・電気回路』(KU12301) 訂正表

2016年12月28日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 15	[No. 3] 2行目	[No. 3] 面積 $S$ 、間隔 $d$ の平行平板コンデンサを電圧 $V$ で充電した後に、電源から切り離し、コンデンサの電極の間に誘電率 $\epsilon$ の物質を充填した。	[No. 3] 面積 $S$ 、間隔 $d$ の平行平板コンデンサを電圧 $V$ で充電した後に、電源から切り離し、コンデンサの電極の間に誘電率 $\epsilon$ の物質を充填した。 <u>このとき、電荷量 <math>Q</math> が蓄えられたものとする。</u>	2016/12/28
P. 17	解答問 1 7行目	クーロン力は、 $F = \frac{\rho^2}{2\pi\epsilon_0(2h)}$ となる。	クーロン力は、 $F = -\frac{\rho^2}{2\pi\epsilon_0(2h)}$ となる。	2016/03/16
P. 42	17行目	この式 (e. 4) をヘルムホルツ方程式とよぶ。	この式 (e. 3) をヘルムホルツ方程式とよぶ。	2016/03/16
P. 43	16行目	波動方程式の解、(e. 9)、(e. 10) は	波動方程式の解、(e. 8)、(e. 10) は	2016/03/16
P. 56	9行目から 14行目	$\begin{aligned} \dot{V}_1 &= j\omega L_1 \dot{I}_1 + j\omega M \dot{I}_2 \\ \dot{V}_2 &= j\omega M \dot{I}_1 + j\omega L_2 \dot{I}_2 \end{aligned}$ <p>として使う。コイルが3つ以上の場合も同じである。 相互インダクタンスを利用すると交流の変圧器を作ることができる。図 16 でコイル 2 を開放すると <math>\dot{I}_2 = 0</math> であり、(3)式から</p> $\frac{\dot{V}_2}{\dot{V}_1} = \frac{M}{L_1}$	$\begin{aligned} \dot{V}_1 &= j\omega L_1 \dot{I}_1 + j\omega M \dot{I}_2 \\ \dot{V}_2 &= j\omega M \dot{I}_1 + j\omega L_2 \dot{I}_2 \end{aligned} \dots\dots (4)$ <p>として使う。コイルが3つ以上の場合も同じである。 相互インダクタンスを利用すると交流の変圧器を作ることができる。図 16 でコイル 2 を開放すると <math>\dot{I}_2 = 0</math> であり、(4)式から</p> $\frac{\dot{V}_2}{\dot{V}_1} = \frac{M}{L_1}$	2016/03/16
P. 69	[No. 1] 解説 下から 2行目	$\frac{dP}{dR} = \frac{r-R}{(R+r)^3} = 0$ <p>より、<math>R=r</math> のときに <math>P</math> は最大になる。</p>	$\frac{dP}{dR} = \frac{r-R}{(R+r)^3} V^2 = 0$ <p>より、<math>R=r</math> のときに <math>P</math> は最大になる。</p>	2016/03/16

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei>)に掲載された日付です。